

が、どこに行けばよいかわからなかったが2.5%、相談したかったが、近くに適当なところがなかったが5.3%であった。

地域別の過去3年間の他機関への相談の有無は、四国が62.5%で最も多く、ついで中部57.1%、中国53.8%、関西52.9%であり、九州が32.6%と最も少なかった。(表1)

また、地域別の相談後の効果については、「大変効果があった」・「効果があった」・「まあまあ効果があった」という効果を認める回答の合計が九州で92.8%と最も多く、ついで北関東92.6%、北海道85.1%、関西84.2%等となっていた。(表2)

地域別の相談をした教師の満足感については、「大変まんぞくしている」・「満足している」・「まあまあ満足している」という一応の満足を認める回答の合計が関西で89.4%と最も多く、ついで北関東89.3%、九州85.8%、東北85.7%等となっていた。(表3) また、外部の機関への相談をしなかった理由としては、各地域とも「相談が必要となることが全くなかった」が最も多く、27.8~63.2%となっていた。(表4) 相談先も各地域ともほぼ病院(大学病院、総合病院)が最多となっていたが、北関東と中部では療育センター付属病院・クリニックが最多となっていた。(表5)

今回の調査でも自由記載には多くの意見が寄せられていた。やはり、どの地域でも教育-医療-福祉の連携は不十分であるという意見が多く、この連携の充実を望む声が多かった。また、連携を充実することで、外部の相談機関に学校と親との橋渡し役となることを期待し、親が子どもの障害を受容し、その後の療育に寄与することを望む声も多かった。

発達障害の専門的な相談機関、特に医療的相

談を受けられるところが少ないか、あっても待機期間が非常に長く、早急に相談したいことがあっても間に合わないという意見も多かった。

D. 考察

今回の調査では、北海道、東北、北関東、南関東、中部、関西、中国、四国、九州の各地域の養護学校や心障学級等の調査を施行し、過去3年間で外部の機関に相談を行った教室の全国平均が50.9%となっており、平成12年度に調査を行った埼玉県、多摩地区の37.6%と平成13年度の神奈川県(横浜市)と東京都(町田市、渋谷区)の63.8%との中間の値を示した。このことは、療育センターが県内の各地にある神奈川県のように相談を行いやすい地域と、このような条件と異なる地域での格差とも考えられる。相談後の効果については「大変効果があった」・「効果があった」・「まあまあ効果があった」という効果を認める回答の合計の全国平均は83.5%であり、また相談をした教師の満足感については、「大変まんぞくしている」・「満足している」・「まあまあ満足している」という一応の満足を認める回答の合計の全国平均が79.1%といずれも高い数値を示しており、外部機関への相談が一定の評価を受けている。地域別にみた相談後の効果はいずれも76.2~92.8%と高い数値を示しており、また地域別の相談をした教師の満足感も66.7~89.4%と高い評価を受けている。

一方依然として、外部機関への相談を受けることに困難さを訴える声も多く、教育-医療-福祉の連携は不十分であり、今後のさらなる充実を望む記載が多かった。

E. 結論

今回の全国的な調査では、養護学校や心障学

級などの特殊教育の教室から外部の機関への相談は多く認められ、相談した教師からは一定の効果や満足感が得られている。しかしながら、依然として専門的なアドバイスを受けられる機関への相談は待機期間が長い、近くになく等の困難さを訴える教師も少なくない。特殊教育にも多くの注目が寄せられている現在では外部の相談機関に対する教師からの要求水準も高くなると考えられ、相談機関の充実と相談を行う際のシステムの整備等が早急に求められている。関係諸機関の一層の尽力を期待するところである。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 西脇俊二：発達障害をもつ子どもへの援助のあり方について 医療の現場から保健室 102: 3-10, 2002.
- 2) 西脇俊二：自閉症の医療と療育 発達障害研究 25: in press.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

研究協力者

加我 牧子
内山 登紀夫
栗林 理人
堀口 寿広
加藤 尚子
林 克也

表 1. 過去 3 年間の他機関への相談の有無

| | 北海道 | 東北 | 北関東 | 南関東 | 中部 | 関西 | 中国 | 四国 | 九州 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あ り | 46.4 | 36.8 | 48.3 | 46.3 | 57.1 | 52.6 | 53.8 | 62.5 | 32.6 |
| な し | 50.0 | 61.4 | 48.3 | 51.7 | 42.9 | 47.4 | 46.2 | 31.3 | 67.4 |

(数字は%)

表 2. 相談後の効果

| | 北海道 | 東北 | 北関東 | 南関東 | 中部 | 関西 | 中国 | 四国 | 九州 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 大変効果があった | 11.1 | 28.6 | 7.4 | 16.1 | 20.8 | 15.8 | 19.0 | 10.5 | 7.1 |
| 効果があった | 48.1 | 38.1 | 55.6 | 39.3 | 37.5 | 42.1 | 52.4 | 42.1 | 57.1 |
| まあまあ効果があった | 25.9 | 9.5 | 29.6 | 26.8 | 25.0 | 26.3 | 4.8 | 31.6 | 28.6 |
| なんともいえない | 14.8 | 4.8 | 3.7 | 12.5 | 16.7 | 5.3 | 23.8 | 0.0 | 0.0 |
| あまり効果がなかった | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.1 |
| 全然効果がなかった | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他 | 0.0 | 19.0 | 3.7 | 3.6 | 0.0 | 10.5 | 0.0 | 15.8 | 0.0 |

(数字は%)

表 3. 相談の満足度

| | 北海道 | 東北 | 北関東 | 南関東 | 中部 | 関西 | 中国 | 四国 | 九州 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 大変満足 | 0.0 | 14.3 | 3.6 | 9.7 | 20.8 | 10.5 | 4.8 | 10.0 | 0.0 |
| 満足 | 44.4 | 23.8 | 39.3 | 32.7 | 29.2 | 36.8 | 33.3 | 15.0 | 42.9 |
| まあまあ満足 | 33.3 | 47.6 | 46.4 | 33.6 | 20.8 | 42.1 | 28.6 | 60.0 | 42.9 |
| どちらともいえない | 22.2 | 4.8 | 10.7 | 21.2 | 29.2 | 5.3 | 33.3 | 10.0 | 7.1 |
| 不満 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.1 |
| 大変不満 | 0.0 | 9.5 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 5.3 | 0.0 | 5.0 | 0.0 |
| その他 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

(数字は%)

表 4. 他機関への相談がなかった理由

| | 北海道 | 東北 | 北関東 | 南関東 | 中部 | 関西 | 中国 | 四国 | 九州 |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 不必要だった | 63.2 | 40.0 | 41.9 | 48.4 | 44.4 | 27.8 | 66.7 | 58.3 | 44.8 |
| どこに相談しても変わらない | 6.7 | 2.9 | 9.7 | 5.5 | 0.0 | 5.6 | 5.6 | 0.0 | 6.9 |
| 学級内で解決 | 3.3 | 25.7 | 16.1 | 15.6 | 16.7 | 22.2 | 11.1 | 16.7 | 10.3 |
| 校内の相談室に相談 | 6.7 | 0.0 | 6.5 | 4.7 | 0.0 | 5.6 | 5.6 | 0.0 | 13.8 |
| 相談先がわからなかった | 3.3 | 2.9 | 3.2 | 2.3 | 5.6 | 5.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 適当なところがなかった | 3.3 | 5.7 | 6.5 | 6.3 | 0.0 | 5.6 | 0.0 | 8.3 | 6.9 |
| その他 | 13.3 | 22.9 | 16.1 | 17.2 | 33.3 | 27.8 | 11.1 | 16.7 | 17.2 |

(数字は%)

表 5. 相談先機関 (地域別)

| | 北海道 | 東北 | 北関東 | 南関東 | 中部 | 関西 | 中国 | 四国 | 九州 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 病院 | 26.3 | 14.3 | 25.4 | 25.7 | 25.6 | 18.4 | 31.4 | 28.1 | 24 |
| センター | 12.3 | 19 | 27.1 | 20.4 | 28.2 | 15.7 | 17.1 | 26.3 | 20 |
| 個人専門 | 7 | 4.8 | 13.6 | 8.7 | 2.6 | 13.2 | 2.9 | 7 | 12 |
| 個人小児 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 個人精神 | 1.8 | 4.8 | 11.9 | 6.1 | 2.6 | 13.2 | 8.6 | 3.5 | 12 |
| 学外心理 | 0 | 2.4 | 0 | 2.2 | 5.1 | 5.3 | 5.7 | 1.8 | 4 |
| 教育相談 | 14 | 0 | 3.4 | 7.8 | 0 | 5.3 | 0 | 1.8 | 12 |
| 児童相談 | 7 | 2.4 | 3.4 | 6.1 | 12.8 | 5.3 | 5.7 | 1.8 | 4 |
| 保健所 | 1.8 | 0 | 1.7 | 0.9 | 0 | 5.3 | 0 | 0 | 4 |
| 福祉事務所 | 1.8 | 2.4 | 0 | 2.2 | 5.1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 28.1 | 50 | 13.6 | 20 | 17.9 | 18.4 | 28.6 | 29.8 | 8 |

(数字は%)

(資料) 質問票 (別紙1)

「教育・療育の連携の現状と問題点」についての質問票調査の御依頼

時下ますますご健勝のことと御喜び申し上げます。

さて、このたびは、当研究班の調査研究にご協力を御願いたしたく存じ上げます。

昨今、知的な発達に障害のあるこども達の暮らしをよりよいものにするために、さまざまな制度や施設が整ってきて、障害のあるこども達が利用できるものが増えた反面、多くの疑問、戸惑い、課題が湧き起こることもしばしば認められるようです。

療育には養育、教育、治療の三位一体の調和のとれた働きかけが必要と考えられています。従って、家庭、施設、学校、病院などの連携がこども達の教育・療育における混乱を減らしていくことにつながり、更にその連携のありかたについての考察が必要であると考えられます。

以上の事を踏まえ、今回はまず学校から病院、施設などへの連携の現状を把握する事を目的に調査を行うことと致しましたので、質問票を送付させていただきました。

尚、この調査はあくまでも養育、教育、治療の連携についての現状把握、考察を目的とするもので、個々の学校の評価などを行うものではありません。

ご多忙のところ、お時間を割いていただきますことにあらかじめ御礼申し上げます。

この質問票には養護学校、特殊学級などを担当されている先生に無記名でお答えいただいて、統計的に扱うもので、他の目的に使用する事は一切ありません。また、ご協力していただいた皆様にご迷惑がかかるような使い方は一切いたしません。

教室一つで一つの質問票に記入をお願い致します。1学年が幾つかの教室に分かれている時はそれぞれの教室で一つずつ質問票にご記入下さい。

出来ましたら、2週間程で返送していただければ幸いです。

こちらで用意させて頂きました返信用封筒に無記名で投函して下さいますようお願い致します。

平成14年11月10日

厚生労働科学研究 「知的障害児の医学的診断のあり方と療育・教育連携に関する研究班」
分担研究 「教育・療育の連携の現状と問題点」

分担研究者 西脇俊二

連絡先 〒359-0004 埼玉県所沢市北原町 860

国立秩父学園 診療科 西脇俊二

FAX 042-995-2253 TEL 042-992-2839

e-mail shunji@juno.dti.ne.jp

【知的発達障害児のための教育環境についておうかがいたします】

以下の各欄で、該当する項目の番号に○印をつけて下さい。必要な箇所には数字、具体的内容を記入して下さい。

(1) 先生が担当されている教室は以下のどれに該当しますか。

1. 心障学級 2. 情緒障害学級 3. 知的障害学級
4. 養護学校の教室 5. その他 ()

(2) この質問票を記入される方の担当する学年は以下のどれに該当しますか。

(当てはまるもの全てを○して下さい。)

1. 小学1年生 2. 小学2年生 3. 小学3年生
4. 小学4年生 5. 小学5年生 6. 小学6年生
7. 中学1年生 8. 中学2年生 9. 中学3年生
10. 高校1年生 11. 高校2年生 12. 高校3年生

(3) 先生が担当されている教室の職員構成を教えてください。

合計 () 人

1. 教 諭 (常勤) 人、 (非常勤) 人
2. 助 手 (常勤) 人、 (非常勤) 人
3. 指 導 員 (常勤) 人、 (非常勤) 人
4. その他 (具体的に) () 人
 () () 人

(4) 教室の生徒の人数を教えてください。

合計 () 人

その中で以下のような症状または診断名がある方の人数を教えてください。

1. 知的障害 (精神遅滞) () 人
2. 自閉症 (知的障害を伴う) () 人
3. 自閉症 (知的障害を伴わない)
4. アスペルガー障害 () 人
5. 2, 3以外の広汎性発達障害 (具体的に ()) () 人
6. 学習障害 () 人
7. 注意欠陥多動性障害 () 人
8. 行為障害 () 人
9. ダウン症候群 () 人
10. てんかん (他の障害を伴わない) () 人
11. てんかん (他の障害を伴う)
(他の障害名 ()) () 人
(他の障害名 ()) () 人
(他の障害名 ()) () 人
(他の障害名 ()) () 人
12. 脳性麻痺
13. その他 (具体的に ()) () 人
() () 人
() () 人

【外部への相談について】

(5) 過去3年間で外部の施設や病院などに生徒の事で相談されたことがありますか。

1. ある 2. ない

(17)へお進み下さい。

「ある」とお答えになった場合は以下の(6)～(16)の質問にお答え下さい。

(6) 何人の生徒の相談をしましたか。

() 人

(7) その生徒の症状、診断などがわかれば教えてください。

1. 知的障害（精神遅滞）（ ）人
2. 自閉症〈知的障害を伴う〉（ ）人
3. 自閉症〈知的障害を伴わない〉
4. アスペルガー障害（ ）人
5. 2, 3以外の広汎性発達障害（具体的に（ ））（ ）人
6. 学習障害（ ）人
7. 注意欠陥多動性障害（ ）人
8. 行為障害（ ）人
9. ダウン症候群（ ）人
10. てんかん〈他の障害を伴わない〉（ ）人
11. てんかん〈他の障害を伴う〉
（他の障害名（ ））（ ）人
（他の障害名（ ））（ ）人
（他の障害名（ ））（ ）人
（他の障害名（ ））（ ）人
12. 脳性麻痺
13. その他（具体的に（ ））（ ）人
（ ）（ ）人
（ ）（ ）人

(8) どこに相談しましたか。

- | | |
|-------------------------|------|
| 病院（大学病院、総合病院） | （ ）人 |
| 療育センター附属病院・クリニック | （ ）人 |
| 個人病院・クリニック（児童精神科、小児神経科） | （ ）人 |
| 個人病院・クリニック（一般小児科） | （ ）人 |
| 個人病院・クリニック（一般精神科） | （ ）人 |
| 学校外の心理相談室 | （ ）人 |
| 教育相談所（教育センター） | （ ）人 |
| 児童相談所 | （ ）人 |
| 保健所 | （ ）人 |
| 福祉事務所 | （ ）人 |
| その他（具体的に（ ）） | （ ）人 |
| （ ） | （ ）人 |

(9) どのようなことで相談されましたか。自由記述でお願い致します。

(10) 相談形態について教えてください。

(それぞれのお子さんについて主な相談形態を教えてください。)

1. 紹介のみ(親、本人が相談に行った) ()人
2. 先生のみで相談に行った ()人
3. 親、先生とで相談に行った ()人
4. 本人、親、先生とで相談に行った ()人
5. 電話 ()人
6. その他(具体的に) ()人
() ()人

(11) 相談の頻度について該当する人数を教えてください。

- 1回のみ ()人
- 1回/月末満 ()人
- 1回/月程度 ()人
- 2回/月 ()人
- 1回/週 ()人
- それ以上 ()人

(12) 相談期間について該当する人数を教えてください。

- 1回のみ ()人
- 3ヶ月以下 ()人
- 6ヶ月以下 ()人
- 1年以下 ()人
- 2年以下 ()人
- 3年以下 ()人
- 4年以下 ()人
- 5年以下 ()人
- 6年以下 ()人
- それ以上 ()人

(1 3) 相談前に先生方が考えられた障害・疾患名と相談先の障害・診断名は同じでしたか、違っていましたか。

1. 同じだった
2. 違っていた
3. 不明（不明の理由）

(1 4) 相談してみてどの程度効果がありましたか（役に立ちましたか。）。

1. 大変効果があった
2. 効果があった
3. まあまあ効果があった
4. なんともいえない
5. あまり効果がなかった
6. 全然効果がなかった
7. その他（）

(1 5) 相談してみて、その満足・不満の程度はいかがですか。

1. 大変満足している
2. 満足している
3. まあまあ満足している
4. どちらともいえない
5. 不満である
6. 大変不満である
7. その他（）

(1 6) 相談してみて良かったこと、役に立ったこと、他に気付いた事などを記入して下さい。
自由記述でお願い致します。

(17) 最後に先生ご自身のことについてお訊きします。

〈性別〉 1. 女 2. 男

〈年齢〉 _____ 歳

〈主要担当教科〉 _____

〈養護学校教諭の免許の有無〉 1. あり 2. なし

〈教師としての経験年数〉 _____ 年

〈養護学校教諭としての経験年数〉 _____ 年

(18) ご多忙のところ、お時間を割いていただきありがとうございました。

先生がふだん感じていること、この質問票についてのご意見、ご質問やなどがございましたら、ご自由にお書き下さい。

ありがとうございました。貴重なご意見を大切に活用させていただきます。

予めご案内させていただきましたように、返信用の封筒に無記名で投函下さいますよう、お願い致します。

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表
書籍

| 著者氏名 | タイトル名 | 編集者 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|----------------|---|-----------|---|--------|-----|------|---------------------------------------|
| 加我牧子 | II 軽度の発達障害；概論；LD、III 気になる問題点とアドバイス；5. いうことを聞かない、指示が入りにくい 6. こだわりが強い、IV 症例から学ぶ保健指導のエッセンス；幼児編；LD | 小枝達也 | ADHD, LD, HFPDD, 軽度 MR 児保健指導マニュアルーちょっと気になる子どもたちへの贈りもの | 診断と治療社 | 東京 | 2002 | 16-21 50-53 54-57 95- 102 |
| 佐々木匡子, 加我牧子 | ことばの遅れー難聴のないものー | 川城信子 | 耳鼻咽喉科診療プラクティス 9 小児の耳鼻咽喉科診療 | 文光堂 | 東京 | 2002 | 72-76 |
| 杉江秀夫 | 先天異常・遺伝疾患「脆弱 X 症候群」 | 白木和夫、前川喜平 | 新小児科学（第 2 版） | 医学書院 | 東京 | 2002 | 218- 220 |
| 杉江秀夫 | 代謝性ミオパチー | 白木和夫、前川喜平 | 新小児科学（第 2 版） | 医学書院 | 東京 | 2002 | 1516- 1522 |
| 杉江秀夫, 杉江陽子 | カルニチン代謝異常 | | 今日の小児治療指針 13 版 | 医学書院 | 東京 | 2003 | in press |
| 杉江秀夫, 杉江陽子 | 重症筋無力症 | | 今日の小児治療指針 13 版 | 医学書院 | 東京 | 2003 | in press |

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|------------------------|---|------|----|---------|------|
| 加我牧子, 堀口寿広, 稲垣真澄 | 精神遅滞の医学的診断と療育連携に関する研究ー第 1 報 精神遅滞の診断に用いられる検査と連携先についての現状調査ー | 脳と発達 | 34 | 235-242 | 2002 |
| 堀口寿広, 加我牧子, 稲垣真澄 | 精神遅滞の医学的診断と療育連携に関する研究ー第 2 報 発達障害の診断に用いられる遺伝子検査の現状調査ー | 脳と発達 | 34 | 313-317 | 2002 |
| 佐田佳美, 稲垣真澄, 白根聖子, 加我牧子 | 漢字および図形に対する認知機能評価ー第 1 報 刺激別視覚性事象関連電位 P300 の発達変化ー | 脳と発達 | 34 | 300-306 | 2002 |
| 佐田佳美, 稲垣真澄, 白根聖子, 加我牧子 | 漢字および図形に対する認知機能評価ー第 2 報 精神遅滞児における視覚性事象関連電位 P300ー | 脳と発達 | 34 | 491-497 | 2002 |

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|--|----------------------|-----|-----------|------|
| Horiguchi T, Ohta K, <u>Kaga M</u> , Nishikawa T | An MEG study of P300 during a color discrimination task | Seishin hoken kenkyu | 48 | 53-58 | 2002 |
| Horimoto R, Inagaki M, Yano T, Sata Y, <u>Kaga M</u> . | Mismatch negativity of the color modality during a selective attention task to auditory stimuli in children with mental retardation. | Brain Dev | 24 | 703-709 | 2002 |
| <u>Kaga M</u> , Kon K, Uno A, Horiguchi T., et al. | Auditory perception in auditory neuropathy: Clinical similarity with auditory verbal agnosia. | Brain Dev | 24 | 197-202 | 2002 |
| 尾関ゆかり, 伊藤智恵子, 笹田夕美子, <u>杉江秀夫</u> ら | 子どもの発達支援における医療と教育との連携について | 小児保健研究 | 61 | 776-781 | 2002 |
| <u>杉江秀夫</u> , 杉江陽子 | 脆弱 X 症候群の臨床像 | 脳の科学 | 24 | 1099-1105 | 2002 |
| 杉江陽子, <u>杉江秀夫</u> , 福田冬季子, 伊藤政孝, 大関武彦 | 小児自閉症障害における fluvoxamine 投与群の臨床効果とセロトニン 2A 受容体遺伝子多型 | 脳と発達 | 35 | 23-28 | 2003 |
| 杉江陽子, <u>杉江秀夫</u> , 福田冬季子, 伊藤政孝, 大関武彦 | 小児自閉性障害における fluvoxamine 投与時の副作用発現に関する検討: セロトニン転送遺伝子多型およびセロトニン 2A 受容体との関連について | 脳と発達 | 35 | in press | 2003 |
| 難波栄二 | 自閉症の遺伝に関する研究: 最近の知見を中心に | 分子精神医学 | 2 | 311-316 | 2002 |
| Kotani K, Shimomura T, Shimomura F, Ikawa S, <u>Nanba E</u> . | A polymorphism in the serotonin transporter gene regulatory region and frequency of migraine attacks. | Headache | 42 | 893-895 | 2002 |
| 西脇俊二 | 発達障害をもつ子どもへの援助のあり方について 医療の現場から | 保健室 | 102 | 3-10 | 2002 |
| 西脇俊二 | 自閉症の医療と療育 | 発達障害研究 | 25 | in press | |

20020891

以降は雑誌/図書に掲載された論文となりますので、
P.47- P.48の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。